


- 1 . 第 18 回「北東アジア協力対話」関連業務

18th Meeting of Northeast Asia Cooperation Dialogue (NEACD)

 キーワード	北東アジア、トラック2、安全保障、信頼醸成
Key Word	Northeast Asia, Track two dialogue, security, confidence building

1. 業務の目的

北東アジア協力対話(NEACD: Northeast Asia Cooperation Dialogue)は、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校世界紛争センター(IGCC: Institute on Global Conflict and Cooperation)のスーザン・シヤーク(Susan Shirk)教授のイニシアティブにより1993年に発足した。外交、防衛関係の政策担当者、軍関係者、学界や民間研究機関からの専門家が参加し、安全保障及び地域協力に関する定期的な政策対話の場となっている。非公式に意見交換を行う「トラック2」の会議であり、政府関係者も個人の資格で参加している。参加国は、日本、米国、中国、ロシア、大韓民国に加え、第13回会合より朝鮮民主主義人民共和国も参加している(第16回ソウル会議は不参加)。

平成19年度に未来工学研究所は外務省からの委託を受け、本会合の日本側窓口機関としての役割を果たし、会合の事務局であるIGCCとの調整、会議参加に向けての外務省を含む国内関係者との連絡調整等の国内的諸準備を実施した。会議終了後には、会議報告書を作成するとともに、次年度以降の本会合の実施に向けた日本政府への提言を含む企画報告書を作成した。

2. 業務の概要

(1) 第18回北東アジア協力対話の開催

平成19年11月12日から14日、モスクワにおいて第18回北東アジア協力対話が開催された。会議の開催に当たり、日本側窓口機関として各種連絡調整等を実施し、会議終了後に会議報告書と企画報告書を作成した。

本年の会議においては、第1日目(11月12日)に全体会合前のワークショップとして、「北東アジアの将来の安全保障と平和メカニズムのビジョン化」に関する5つのセッションがもたれた。それらは、「地域の安全保障制度の比較視角」、「地域安全保障メカニズムの目的」、「制度デザイン」、「国内ダイナミクス」、「結論及び政策的含意」である。

2日目(13日)と3日目(14日)は全体会合であり、ロシア、中国、日本、韓国、北朝鮮、米国の参加者からそれぞれ北東アジアの安全保障環境についてのプレゼンテーションと質疑応答などが実施された。

会場は、ロシア外務省の外交アカデミーが使用された。

(2) 主な成果

今回の会議の特色は、1日目に「北東アジアの将来の安全保障と平和メカニズムのビジョン化」についてのワークショップを開催し、六者会合のワーキング・グループの一つである「北東アジアの平和と安全保障メカニズム」の議論のインプットになるような成果を出そうと試みたことである。ワークショップにおいては、実際的でコンセンサスに基づく今後の北東アジアの安全保障の枠組み作りのロードマップを議論し、その際の課題についてブレインストームすることが目的だった。

議論においては、制度やメカニズムとして全く新しいものを作ることを目指すのではなく、今の六者会合に対しては6カ国からのコミットメントがあり有効に機能しているので、それを進化するように発展させていくのが最善であるとの意見が多く参加者から出された。

(以上、IGCC発表の公開情報に基づく)

表 「北東アジア協力対話」の「本会合」開催状況（過去10年間）

回数	開催時期	開催場所	アジェンダ
8	1998年11月11、12日	ロシア（モスクワ）	1.北東アジアの安全保障についての各国の見方、軍事的見方 2.アジアの安全保障アーキテクチャーにおけるNEACDの役割 3.朝鮮半島における信頼醸成 4.アジアの財政危機の安全保障上の意味 5.防衛情報の共有プロジェクト
9	1999年12月8、9日	中国（北京）	1.北東アジアの安全保障についての各国の見方、軍事的見方 2.NEACDの活動、関連プロジェクト
10	2000年11月9、10日	韓国（ソウル）	1.北東アジアの安全保障についての各国の見方 2.朝鮮半島における緊張緩和と地域的インプリケーション
11	2001年11月8、9日	米国（ホノルル）	1.地域協力の向上、北東アジアにおけるマルチラテラリズムなど
12	2002年4月25、26日	日本（東京）	1.北東アジアの安全保障についての各国の見方 2.対テロリズム協力 3.防衛情報の共有
13	2002年10月1～3日	ロシア（モスクワ）	1.北東アジアの安全保障についての各国の見方 2.エネルギーの需要と供給トレンド：地理的インプリケーション 3.防衛情報の共有
14	2003年9月1、2日	中国（青島）	
15	2004年4月	米国（ラホヤ）	
16	2005年4月12、13日	韓国（ソウル）	
17	2006年4月9～13日	日本（東京）	1.北東アジアの安全保障についての各国の見方 2.核の検証（verification） 3.トラック1とトラック2の多国間外交の今後とNEACDの将来の発展
18	2007年11月13、14日（12日にワークショップ開催）	ロシア（モスクワ）	

（注）開催場所、アジェンダはIGCCが公表している情報に基づく。